

とくた けんいち 徳田けんいち後援会NEWS VOL.4

徳田けんいち後援会
代表 徳田 賢一
社会保険労務士・行政書士
東久留米市商工会広報委員長
東村山間税会広報委員



VOL.1、VOL.2、は、後援会のHPからダウンロードできます。
▼ <https://tokuta.net/>



※ VOL.3は、3月上旬発行予定です。VOL.3では、行政におけるDX(Digital Transformation、デジタルトランスフォーメーション)の在り方、運用等について考えたいと思います。VOL.2同様に、Web (<https://tokuta.net/>) からダウンロードできるようにいたしますので、ご一読いただければ幸いです。

東久留米市に大学を誘致しましょう。

1. 大学新設・増設の法規制

東京23区の大学は、全国で唯一、学部・学科の定員が増やせないように規制がかけられており、これを23区規制といいます。

政府はデジタル分野の人材を育成するため、東京23区内の大学の定員増を認めない規制を2024年度にも緩和する方針を固め、定員を増やせるようにするというのですが、これはデジタル系の学部・学科に限ります。

2. 東久留米市の立地

東久留米市は池袋駅から西武線で約20分の距離にあり、都心から大変近い位置にあります。都内23区内で定員増を行うことができない大学が、定員を増やすために新たなキャンパスを設ける地域として、有力な候補になってしかるべき立地であるといえます。学生や学校関係者がわざわざ東京都や埼玉県の深奥部まで通勤・通学しなくてもいいのです。

3. 東久留米市における大学誘致の現状

過去、東久留米にも、ほぼ決まりかけた大学誘致の話があったそうです。どうしてそのような案件が途中で立ち消えになってしまったのかわかりませんが、ある有力者からうかがった話では、ある大学が上の原に誘致されることになっていたそうです。

そのような経緯もあったことから、東久留米市への大学誘致は、決して夢物語ではないと思います。

東久留米市には、まだまだ広い土地があり、豊かな自然もありますので、都心から至近距離にあることもあわせて考えると、東久留米市は今でも大学誘致の候補地として、十分な資格を兼ね備えているように思われます。

4. 大学誘致の効果

大学誘致の効果としては、まず、学生や大学関係者の往来による昼間の人口の増加、人口構成の若年化、それによる商店街の振興など地域経済の活性化が考えられます。

また、大学施設の近隣にアパートやマンションを借り、そこから通う学生や大学関係者も想定されますので、そのような要因による地域経済、地域文化への好影響も期待できるようになります。

そして、アパートやマンションを借りることを検討している学生や学校関係者に対し、団地の空き室や市内の空き家を整備して貸し出せるようにすると、空き室・空き家問題の解決にも繋がります。

その他にも、特に団地においては、高齢者だけの世帯が増えており、おなじ棟や地域で高齢の住人たちが学生や学校関係者と一緒に生活するようになると、高齢者と若い世代が日常的に触れ合い、互いに助け合うような関係も築かれますので、双方の世代が抱えている様々な問題を解消する一助になることが期待できるようになります。

5. 大学誘致の課題

現在、大学誘致を希望する自治体を取り扱ったWebサイトに東久留米市の情報が掲載されているようですが、このような待ちの姿勢では、大学誘致はなかなか難しいように思われます。自治体の担当者が単独で、あるいは議員と一緒に定期的に大学まわりをするなどしてプッシュ型の営業を行わないと、膠着した事態を打開することは困難かと思えます。

手塚治虫先生の名声による東久留米市のブランド化、観光地化もそうですが、地域振興、地域経済の活性化をはじめとする様々な効果が期待できる大学誘致という大きな目標に向かって前進しましょう。